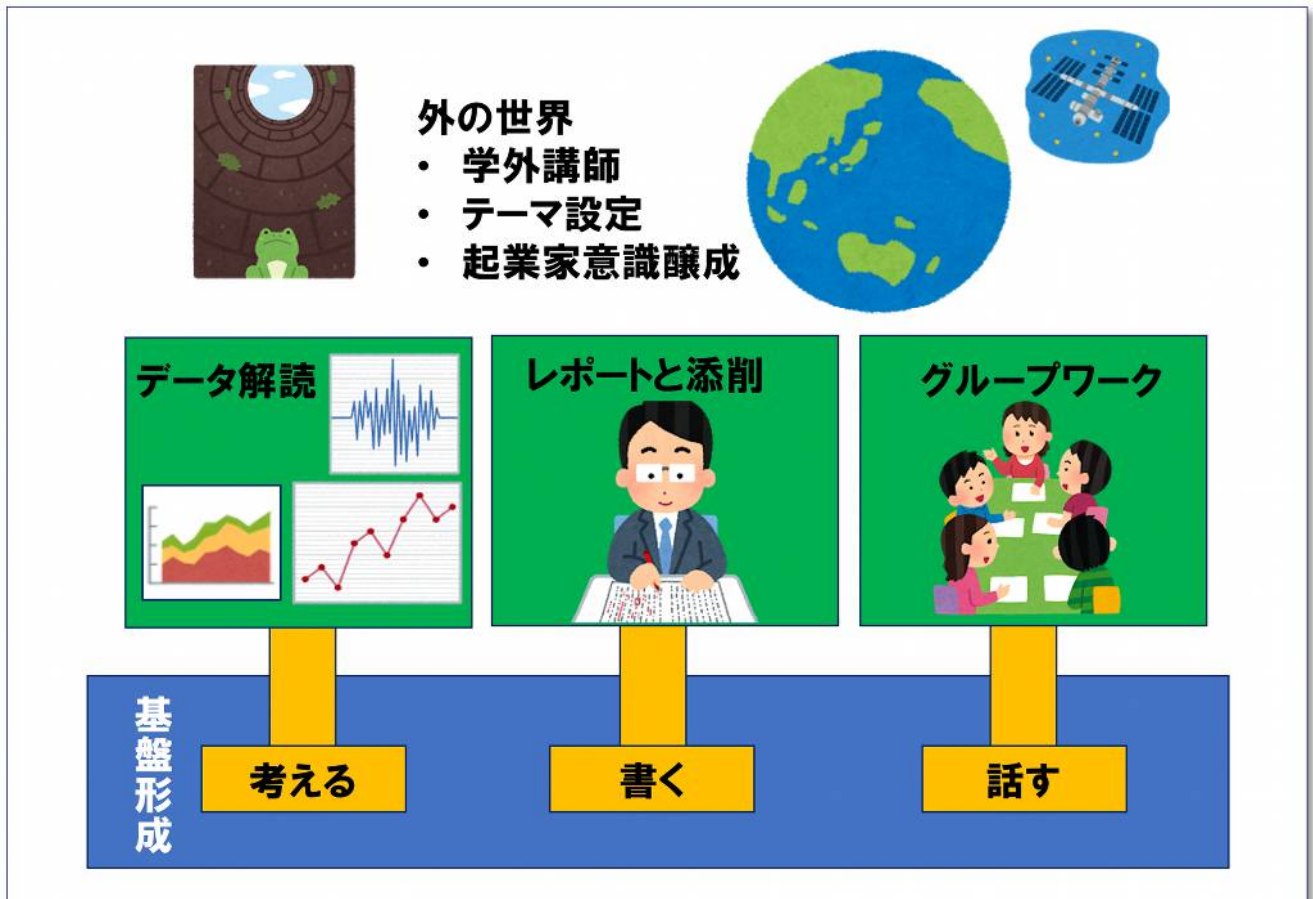


# ティーチング・ポートフォリオ



大学名 東京都市大学  
所属 情報工学部知能情報工学科  
名前 特任教授 芝正孝  
提出日 2021年9月22日

## 1. 責務

2020年4月に東京都市大学に特任教授として着任した。大学での教育活動は、過去に東京大学と東京都市大学での非常勤講師としての経験があるのみで、専任教員としての活動は初めてである。これまでの豊富な企業経験（生産技術、経営戦略、業務改革、IT、情報セキュリティ、グローバルガバナンスなど）を活かし、「専門キャリアマネジメント」「グローバル企業マネジメント」などのマネジメント系の授業を担当するとともに、知的経営システム研究室で卒論生の指導を行っている。また、学生の起業家意識を高めるための特別講義「デジタル社会に求められる人材」のコーディネーターや、海外インターンシップ委員会の委員として、学生のグローバル対応力の強化推進に取り組んでいる。

## 2. 理念

自ら考え、様々な課題を解決できる力を身に付けさせることで、社会に出て大いに活躍できる学生を育てたいと考えている。

特に、永い企業経験で社会が求める人材像を把握していることもあり、東京都市大学に着任して、学生には、「基礎能力の不足」「表層知識のみの学習」「狭い世界・視野」の3つの大きな課題があることを発見したため、自らの理念を実現するために、現在その改善に注力している。

「基礎能力の不足」に対しては、「考える・書く・話す」を基本に、その訓練の場を提供する。

「表層知識のみの学習」に対しては、試験が終わったら忘れてしまうようなことがないように、理解しやすい資料や説明を心掛け、また、グループワークによる体験を増やし、知識・理論として学生の記憶に残るように工夫を凝らす。

「狭い世界・視野」に対しては、これまでの人的ネットワークを生かし、社外講師の実体験談などを授業に組み込み、理論だけでなく実際を知ってもらうことで、海外との交流や起業などを含む新しい世界に学生の目を向けさせる努力をしている。

## 3. 方法

【概要】『考える・書く・話す』ための訓練の場を学生に提供する」「理解しやすい資料や説明を心掛け、また、グループワークによる体験を推進する」「社外講師の実体験談などを組み込むことにより、理論だけでなく実際を知ってもらう」の3つの大方針の下に授業を設計し実施している。

【方針1】「考える・書く・話す」ための訓練の場を学生に提供する。

- 方法 1-1 グループワークを活用し、複数のデータを個々人の視点で解読し、ポイントを説明させることでデータ読取力を養うとともに、チーム内で多様な考え方に触れさせる。
- 方法 1-2 レポートを重視し、抽象的なテーマ設定やきめ細かなコメント・添削により、自ら考え・ロジカルに説明できる力をつけさせる。
- 方法 1-3 採点基準を明確化し、学生のより創造的な発想を引き出す。【図1参照】

### 1-3 成績評価の仕方

授業参画度 30%	演習成果 20%	通常レポート 30%	最終レポート 20%
--------------	-------------	---------------	---------------

◆ 全14回中、10回以上の出席を成績評価の前提条件とします。(注)

(注)欠席した場合にもレポートを提出すれば、2回連続の授業に対して、1回の出席とみなします。

◆ 「授業参画度」では、授業中の質問や、演習における参画の積極性などを評価します。(発言・発表や、記名での質疑や回答)

◆ 「演習成果」では、演習成果物のレベルをチームとして評価します。

◆ 「通常レポート」「最終レポート(最終日の宿題)」では、考察のレベル、論理構成はもちろんのこと、社会人として要求される文章の品格なども評価します(これについては、後で説明します)。なお、欠席しても、レポートは必ず提出してください。レポートの提出が期限に遅れた場合は減点します。

### 1-4 演習成果の採点基準

5点満点	標準的な演習(グループワーク等)成果単体の採点基準
5	私を唖らせるような内容の濃いもの
4	優秀と判断されるもの
3	さらに深掘りした考察等が必要なもの
0~2	演習で求められるレベルに達しないもの

・ 欠席した人も、演習の課題を自分なりにまとめて必ず提出してください。なお、演習に参加していないことを考慮し、上記点数から1点差し引いて採点します。

・ 1日に複数の課題があるときは、それぞれ5点満点で評価しますが、合計を課題数で割り、平均値として最終採点に組み込みます。

・ ブレイクアウトセッションのグループ(チーム)分けは、毎回変更しますので、組み合わせによる不満を持つ方も出るかもしれませんが、逆に、リーダーシップを取ってよい成果を目指してください。

### 1-5 毎回のレポートの採点基準

今後、皆さんがエントリーシートなどを書くことも考慮し、以下の基準で厳しく指導します。

10点満点	標準的なレポート単体の採点基準		
10	● 自分の考えを持っている	私を大いに唖らせた非常に優秀なレベル	
9	● 論理的に矛盾がない	私に訴えるものがある非常に優秀なレベル	
8	● 読みやすい	優秀なレベル	
7	体裁は整っていて、自分の考えも持っているが、論理展開に問題があるなど、改善が必要なレベル		
6	自分の考えを持っていなかったり、非常に読みにくかったり、あるいは、雑に書かれた印象を持つなど、大幅な改善が必要なレベル		
5~1	レポートの体をなしていない、内容が空疎であるなど不合格のレベル		
0	レポート提出無し		
減点基準	遅延	期限後1週間以内	-1
	大幅遅延	それ以降	-2
	文章の品格不足	別途説明	-1~-2

図1 例：2021年度「グローバル企業マネジメント」の成績評価基準

【方針2】理解しやすい資料や説明を心掛け、また、グループワークによる体験を推進する。

- 方法 2-1 分かりやすいPPTを作成する。
- 方法 2-2 SLIDOを用いて学生との双方向コミュニケーションを実現するとともに、そのデータを用いて、学生の知識レベルに合わせて説明内容を変える。
- 方法 2-3 グループワークにおいて、現実に即した具体的テーマを設定する。
- 方法 2-4 最終日に独自アンケートを実施し、翌年度の授業改善に結びつける。

【図2参照】



図2 例：独自アンケート結果の抜粋

【方針3】社外講師の実体験談などを授業に組み込み、理論だけでなくことで実際を知ってもらう。

- 方法 3-1 海外経験豊かな社外講師を招き、実体験談を語ってもらう。あるいは、起業経験者起業のきっかけや醍醐味を語ってもらうことで、起業家意識の醸成も図る。  
【図3参照】
- 方法 3-2 グループワークのテーマ設定に工夫を凝らし、人生100年時代、ダイバーシティ、グローバル化など具体的なテーマについて考えることで、しっかりとした社会常識をインプットする。

## 2021年度特別講義(後期集中講義) 「デジタル社会に求められる人材」の実施予定

東京都市大学  
TOKYO CITY UNIVERSITY

日程	時間	内容(仮題)	講演者(敬称略)	所属
☆	9/28	第5限	ガイダンス(履修学生のみ)	芝 正孝 東京都市大学 知能情報工学科 教授
1回	10/12	18:00 ~ 【注1】	成功=ヒト×DX 鈴木 康弘 (1987電気)	(株)デジタルソフトウェア 代表取締役社長 (株)SBIホールディングス 社外取締役、 (一社)日本オムニチャンネル協会 会長
2回	10/26	18:00 ~	連続起業家(シリアルアントレプレナー)という生き方 川邊 雄司 (2001環境情報)	(株)YKB 代表取締役、 (一社)アライナー矯正歯科衛生士協会 会長
3回	11/9	18:00 ~	組織を越えた“共同体”的働き方のデザイン 津田 賀央 (2001環境情報)	Route Design(同) 代表 /プロジェクトデザイナー/サービスデザイナー
4回	11/23	18:00 ~	起業する都市大生の強みと就職以外の選択肢について 木部 泰明 (2006機工)	(株)トレントアクア 代表取締役社長
5回	12/7	18:00 ~【注2】	米国トップ企業(GAFA等)の特許/知財戦略について 服部 健一 (1966機械)	Westerman Hattori, Daniels & Adrian, LLP, Head Partner, 米国弁護士, Juris Doctor
6回	12/21	18:00 ~	「ゼロイチ」目覚めた日本!新しいこと始めるよ! 東 和信 (1999経営工学)	アズラボ(株) 代表取締役
☆	1/11	第5限	まとめ(履修学生のみ)	芝 正孝 東京都市大学 知能情報工学科 教授

【注1】毎回の講演の終了時間は、20:00から20:30を予定しています。

【注2】12/7は、講師が米国東海岸から参加される予定のため、時差を考慮し、開始時間が19:00になる可能性があります。

DX: Digital Transformation  
GAFA: Google, Apple, Facebook, Amazon

© Masataka Shiba, Tokyo City Univ., 2021 All rights reserved.

図3 例：特別講義「デジタル社会に求められる人材」プログラム

#### 4. 成果

- SLIDOによる双方向コミュニケーション、詳細なレポート添削による文章力アップや起業家意識の醸成、グループワークの実施、英語必要性の認識などに関しては学生から評価されている。  
【授業後の独自作成アンケート結果あり：図2参照】
- 定員を超える研究室仮配属希望者があった。  
【面接による選抜実績あり】
- コーディネートしている「特別講義」の受講生が東京都市大ビジネスコンテストに参加した。  
【授業受講者の少なくとも2組が応募、内1組は入賞】
- SLIDOによる双方向コミュニケーションの効果的な手法を確立した。  
【授業における多数のSLIDOの利用実績あり】

#### 5. 目標

- 10年後に、社会で活躍している人材(起業した人を含む)を輩出する。